学校の概要	学校名	茅野市　立 長峰　学校	学校長	宮澤 宏	児童生徒数	369 名

「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について

学校運営に必要な支援に係る協議の場

		会議の委員構成			
運営委員会（信州型コミュニティスクール）	○	市町村教委		自治会代表	
学校運営協議会（コミュニティ・スクール）		公民館代表		PTA代表	○
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○

名称	長中CS運営委員会
［その他の委員］※具体的な役職名を記入	・民生児童委員会長　・主任児童委員 ・コミュニティセンター長　・学校評議員

会議開催数（予定）	4	回	今年度開催日（予定）	5月20日　7月8日　10月20日　1月24日

ボランティアの組織化（地域学校協働本部）について

○	ボランティアのリストがある
○	ボランティアの団体がある（組織化されている）
○	ボランティアと学校の情報交換会がある
	ボランティアの方を対象とした研修会がある

学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか（それぞれの人数を記入）		
	地域コーディネーター	1 人
	地域学校協働活動推進員（教育委員会の委嘱を受けた者）	人

中心的なコーディネーターの立場（リストより選択）	地域住民
具体的な役職（その他を選択した場合は立場・役職を記入）	無職

運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況

学校教育目標	『開拓精神』　「気づき」「考え」「実行する」 子ども
地域と共有された育てたい子どもの姿	・地域の「もの」「ひと」「こと」と積極的にかかわり、社会への関心を高め、「気づき」を基に「考え」「実行する（行動できる）」生徒。

運営委員会または学校運営協議会での協議内容（本年度もしくは昨年度）

1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○
2	学校運営への必要な支援について	○
3	地域の実情や課題について	○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	

地域と協働した活動状況

1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。（専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可）		
4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	10 人
		参加者延べ人数	31 人

地域学校協働活動の概要

登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会		クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂（こどもカフェ）との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育（職場体験を含む）	○	
人権教育		国際理解		託児								

学校・家庭・地域の協働した取組例

介護体験学習（6月23日）

職場体験学習（8月）

読み聞かせ（10月20日）

代表的な協働した活動の取組例
（上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください）

○ 取組の内容（どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか）

2年生を対象に、家庭科の授業の中で介護学習を行った。コロナ禍の中で、ソーシャルディスタンスの必要があることから、実施時期を考慮した。社会福祉協議会の職員をお招きし、高齢者体験プログラムを行い、高齢者の気持ちを知り寄り添うことの大切さを学んだ。座学のみで学習する場合と違い、より深く高齢者の気持ちを理解することができ、実践的な学習を進めることができた。生徒からも、「転んだらなかなか起き上がれないんだなと思った。」や「歩くのがとのかく大変だった。杖がないと倒れてしまいそうだった。おじいちゃんおばあちゃんの足腰が痛い気持ちがとてもわかった。」、「本当に目はこれしか見えてないと思うと、日常生活どんな風に過ごしているか気になる。」など、体験を通したからこその感想が多く見られた。また、学習のまとめとしては、「これから高齢者と会った時は，気を遣ってあげたいと思った。お年寄りは毎日こんな感じで生活しているのがすごいと思った。高齢者の気持ちを味わえてよかったです。」や「高齢者には、てを貸してあげたり、優しい対応をしてあげたいなと思った。歩くのがゆっくりだけど、ちゃんとペースを合わせてあげるといいと思った。身体は不自由だけど楽しいだぞというのを、実際に自分が年を取ったら感じられるといいなと思った。疑似体験をしてみて、高齢者の気持ちがわかったので、大変そうだなと思ったら、察してあげたいと思った。」など、この学習を通して生徒の心情の変化が見られた。

育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題
（運営上の課題を記入　例　人材確保について、打ち合わせや会議について等）

AfterコロナやWithコロナとはいうものの、まだまだコロナ禍前のようにはいかないが、だいぶ教育活動は戻ってきました。今後はこの状況の中で地域の協力をいただきながら、何を実践していくかコロナ禍を通して考えていくことが課題と考える。コーディネーターが、無理せずにとおっしゃっていることもあり、CS運営委員会の中で今後の活動方針を確認していくことが大切だと感じる。